島根県発掘調査通信　第3号

飯南町
下来島

猪子原（いのこばら）遺跡発掘調査現地公開資料

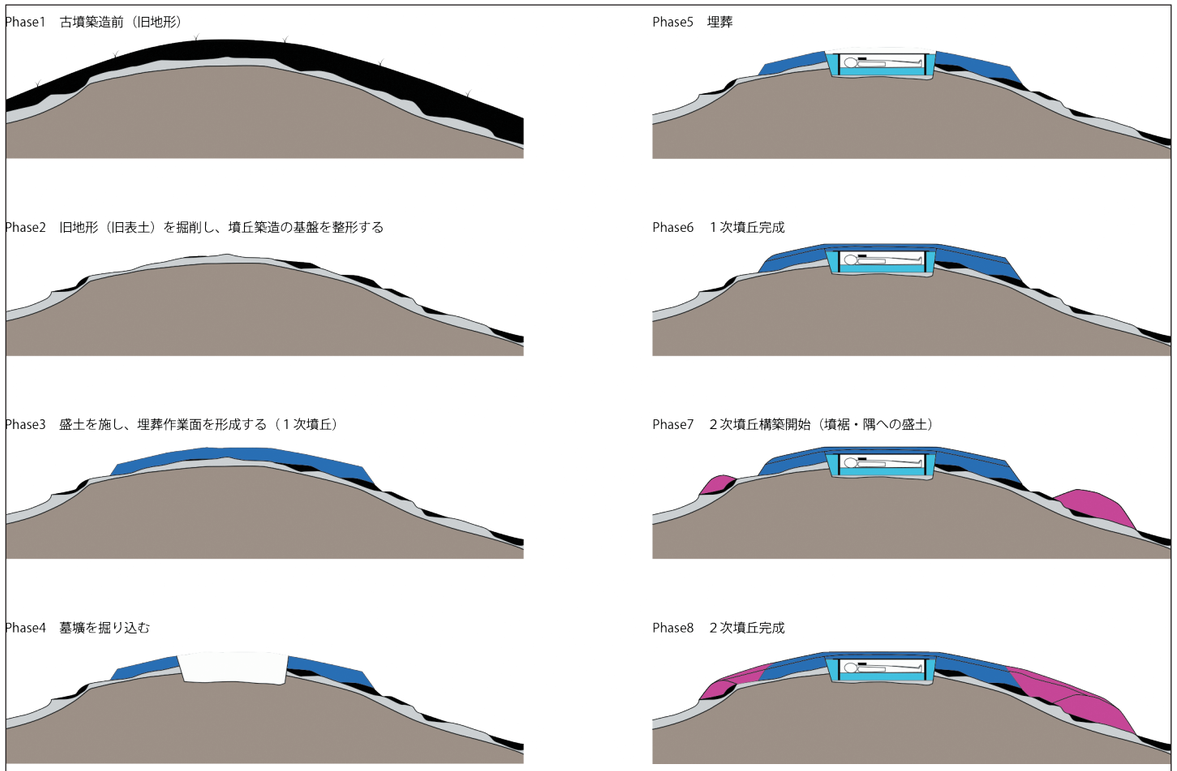
令和元年９月１日
島根県埋蔵文化財調査センター
飯南町発掘調査事務所
TEL0854-76-9166

猪子原（いのこばら）遺跡
〇所在地：飯石郡飯南町下来島
〇発掘契機：大規模民間開発に伴う発掘調査
〇調査面積：約５００㎡
〇調査期間：７月～８月

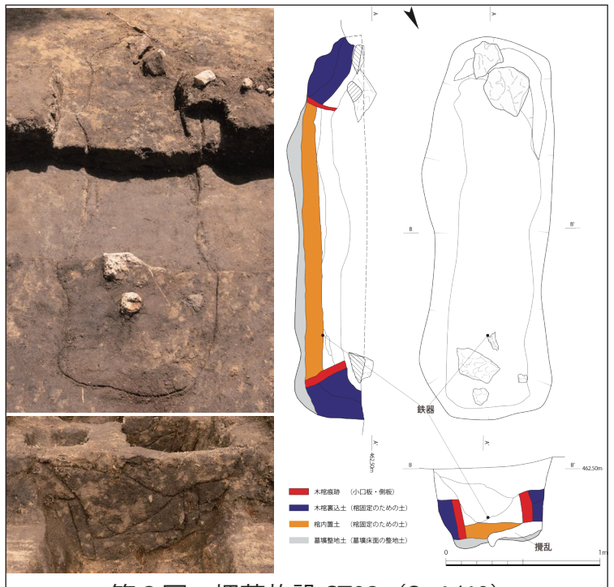
調査地位置図

●調査の概要（第３図）
・古墳時代のお墓（古墳：猪子原１号墳）を発見。
　丘陵頂部付近の尾根上に長さ約20m、幅10m、高さ0.4mの墳丘を確認。
・墳丘中央部で埋葬施設（ST03）を検出。
　埋葬施設は長さ2.5m、幅0.8m、深さ0.5m。
　被葬者の棺には木棺（箱式木棺）を使用。
　副葬品として袋状鉄斧が出土。
・古墳時代中期後半（５世紀後半）頃の築造か
　埋葬施設の構造や副葬鉄器の形状から５世紀後半（約1,600年前）頃のお墓であることが判明。

●遺跡の評価
・１号墳の墳丘構造について（第１図）
　古墳時代のお墓は土を盛ることで墳丘を造っています。発掘調査では盛土の堆積状況を明らかにしました。その結果、当該地域の古墳築造方法の一端が明らかとなりました。１号墳は古墳築造前に地面を削り、古墳築造の基盤を造っています。その後、被葬者を埋葬するための墳丘（１次墳丘）を盛土によって形成し、埋葬を行っています。埋葬後は１次墳丘の周囲にさらに盛土を施し、長方形に墳丘の形を整えています。
　墳丘の形を長方形にする理由は正確には不明ですが、狭い尾根状に古墳を築造しているため、地形に合わせた墳丘形態にしていることも考えられます。また、２次墳丘を施すことにより、１次墳丘を保護する状況がうかがえます。被葬者が手厚く埋葬されているといえ、送葬者（集団）にとって被葬者が重要な役割を担っていたことが考えられます。
　ただし、島根県や隣接の広島県で類似の盛土構造や墳丘形態の事例がないため、今後さらなる検討を行っていきます。
・埋葬施設及び副葬品について（第２図・写真１）
　１号墳では埋葬施設に堆積していた土の状況から、使用された木棺は板を組合わせる「箱式木棺」であると考えられます。また、木棺は小口板（木棺短辺の板材）と側板（木棺長辺の板材）の痕跡が確認できました。これらの板材は土によって固定され、小口板の上部には礫を配置し、固定している状況が判明しました。この木棺の固定方法は５世紀後半（古墳時代中期後半）以降に認められる特徴となります。
　埋葬施設内部からは鉄器（袋状鉄斧）が出土しています。小型の斧で、伐採後の木材加工などに使用されるものと考えられます。木棺内部から出土したことから副葬品と推測できます。鉄斧の形状から５世紀後半頃に作られたものと考えられます。今後は、副葬品が明らかになったことで被葬者が生前担っていた役割や被葬者の属していた集団について検討していきます。



第１図　猪子原１号墳の墳丘構築構造模式図



第２図　埋葬施設 ST03（S=1/40）

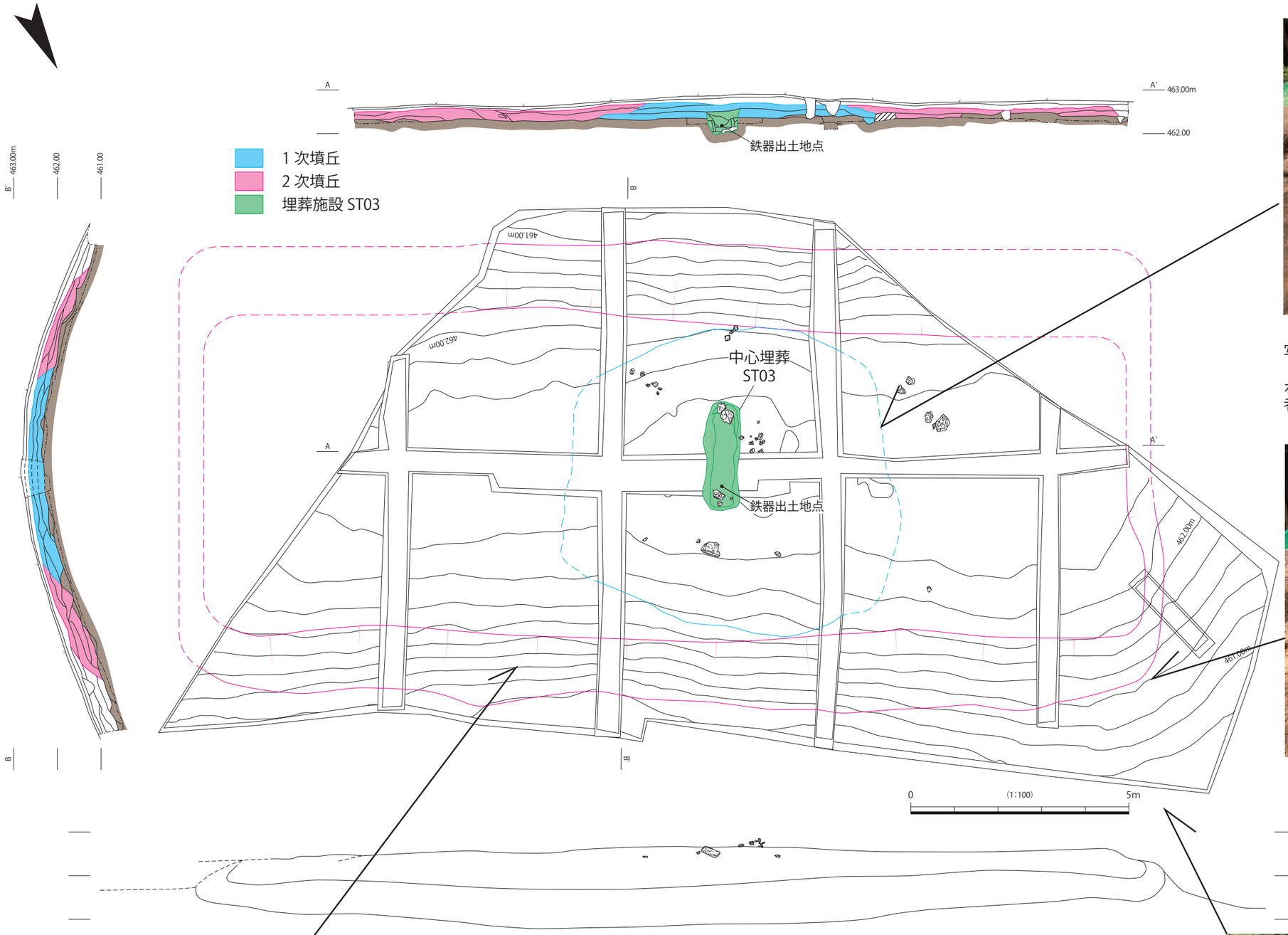
写真１　猪子原１号墳出土鉄器（袋状鉄斧）

写真２

写真３

写真２：１号墳検出作業風景
１号墳斜面を掘削道具（スコップや鋤簾）を使用して検出しています。

写真３：ST03 掘削作業風景
埋葬施設内部からは玉などの副葬品が出土することが多いため、小さな道具を使って慎重に掘削します。



第３図　猪子原１号墳調査平面図・断面図・立面図

写真５

写真５：１号墳１次墳丘

１号墳では被葬者を埋葬するために構築された墳丘（１次墳丘）を確認しています。埋葬後は周辺にさらに盛土を施しており、被葬者の埋葬を手厚く保護している状況とも考えられます。

写真６

写真６：１号墳北側隅部

隅部は北側のみ調査対象範囲内で検出されています。旧地表面の削り出しと小規模な盛土によって構築されています。隅部の形状は丸みを帯びています。

写真４

写真４：１号墳北側斜面

１号墳は旧地表面の削り出しと盛土によって構築されています。盛土は厚さ 0.5mと低くなっていますが、削り出しと合わせると高い墳丘となります。北側ではその様子がよく分かります。

写真７

写真７：１号墳空撮

空撮によって上空から１号墳を見ると、南東隅付近の土の色が黄色くなっています。この部分は元々の地形に堆積していた黒色土やハイカ層（三瓶山火山噴出物）を完全に削り、地山層を露出させています。古墳築造に大規模な土木工事が行われていた状況がうかがえます。